

様式第3号

## 会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成25年度 第1回 川西市文化財審議委員会	
事 務 局 (担 当 課)		教育振興部 社会教育室 (内線 3421)	
開 催 日 時		平成25年9月13日(金)14時00分～15時30分	
開 催 場 所		川西市役所 B02会議室	
出 席 者	委 員	多淵委員長、福永委員 計2名	
	そ の 他		
	事 務 局	牛尾教育長、柳川社会教育室長、井上社会教育室副主幹、山田主任、岡野主事 計5名	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		なし	
会 議 次 第		・報告 (1)平成25年度川西市文化遺産継承・活性化事業の実施について (2)勝福寺古墳の県指定文化財申請について (3)その他	
会 議 結 果		別紙のとおり	

審 議 経 過

NO.1

事務局あいさつ	<p>本市では、第5次総合計画がスタートしている。教育では、「育つ」と「学ぶ」というキーワードで施策を進めているが、そのなかで文化財の保護・活用についても大きな柱の一つにあげられている。本日は、二つの報告をさせていただくので、よろしく審議をお願いしたい。</p>
委員長	<p>委員2名の出席であるが、本日は決議事項がなく、報告事項だけであるので、事務局で進めていただきたい。</p>
事務局	<p>それでは、事務局より報告事項「平成25年度川西市文化遺産継承・活性化事業の実施について」を報告する。 (事務局よりスライドを使用し、市内2地区2団体の太鼓台修理状況についての報告を行った。)</p>
委員長	<p>今年の事業では、明治10年代くらいに各村が太鼓台や屋台を作ったようで、製作年代がはっきりしてきた。倉庫の中で保存しているのが、傷みは少なくきれいなものである。修理後のお披露目が楽しみである。</p>
A委員	<p>矢問地区では分解して保管し、小戸地区では分解せず保管していたことから、矢問地区の方が根本的な修理が必要であったということか。</p>
事務局	<p>矢問地区は毎年太鼓台上部を分解するため、かなり緩みが出ている。修理時には完全に解体していた。小戸地区の場合は修理時屋根と彫り物を外しているだけであった。</p>
A委員	<p>どこまで修理するかは、各地区の人たちの判断によるものか。</p>
事務局	<p>基本的には、各地区の保存会が修理内容を決め発注するが、修理前と修理中に指導にあたる多淵先生と事務局で洗いやニス塗り方等をチェックしている。</p>
委員長	<p>洗いをかけるときは苛性ソーダを使いかなりきつく洗う場合が多いが、それはやめてもらい石鹸くらいで丁寧に洗ってもらおうようお願いしている。 明治10年代に各村が元気になった頃にこのような屋台を作り、村祭りの時に神社に奉納したようであるが、民俗的にそれまではどのようにしていたのか、あまり聞いたことがない。西岡先生にこのことをうかがいたい。</p>
事務局	<p>西岡先生は、残念ながら本日欠席であるが、教えていただくよう</p>

	<p>をお願いしたい。</p>
<p>A委員</p>	<p>これらの情報は、記録して保存されるのか。補助事業として採択したものは報告書は出されるであろうが、それ以外の川西市内でこれに類するものがどれほどあるのか。後継者がなく継承されない可能性もあるので、悉皆的に記録を取る必要があるのではないかと。</p>
<p>事務局</p>	<p>悉皆調査については、前回の審議委員会でも委員より意見をいただいているが、現状は今回の補助事業に手を挙げた地区しか着手できていない。太鼓台が倉庫に眠ったままの地区もあり、太鼓の叩き方も後継者がなく途絶えることもあるかと思われるので、今回の事業を機に少しずつでも進めるべきと考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>地区の人だけで担ぐには太鼓台が重すぎるので、応援に来てもらったり応援に行くなどすれば、途絶えることはないのではないかと考える。 事務局より次の報告をお願いしたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>(事務局より「勝福寺古墳の県指定文化財申請」についての説明あり。)</p>
<p>委員長</p>	<p>県指定の方向で決まっているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、県の審議委員の現地調査があり、来年2月に審議会が開催され正式に答申されると聞いている。現地調査で課題等を指摘されるかもしれないが、答申があり、県の教育委員会で議決され告示の流れになってくると思う。 県教委からの話では、諮問の際に現状のフェンス囲いが良くないという意見があったと聞いている。</p>
<p>委員長</p>	<p>フェンスを撤去すべきというのか。古墳から離して設置すべきということか。</p>
<p>事務局</p>	<p>撤去すべきという意見のようである。勝福寺古墳の場合急傾斜であるので、危険防止上必要と思われるが、現地調査の際に意見をうかがいたい。</p>
<p>A委員</p>	<p>フェンスには鍵がかかっているのか。最近、国史跡指定の場合では、活用をどうするのかということが聞かれることが多いようである。この点、市でフェンスをどうするかの方針を決めておいた方がよい。</p>

<p>委員長</p>	<p>子どもたちの歴史学習や地元への文化財広報でこの場所に多くの方が来てもらう機会を設ける等、市教育委員会としてうまく答えておいたほうがよい。</p>
<p>事務局</p>	<p>以前、自然と文化財というテーマで親子の観察会を行い、25、26人集まってもらったことがある。</p>
<p>A委員</p>	<p>勝福寺古墳は、大変重要な古墳で、私どもが川西市と発掘調査した際にわかったことであるが、継体天皇と関わりのある古墳である。ここの埴輪は、継体天皇のお妃の関係で名古屋あたりの工人が来て作っているが、この尾張型埴輪は学会でもこの10年間で提起され認知されているものである。また、石室も当時としては最新の横穴式石室が良く残っている古墳である。私としては、県とはいわず、国の史跡指定を目指してほしい。</p> <p>実は、2020年が『日本書紀』ができて1300年にあたるということで、各自治体で『日本書紀』にまつわるテーマを探してシンポジウムや文化財の活用を実施していこうとする動きがある。川西市も取り組みの一つとして考えられないか。</p>
<p>委員長</p>	<p>そういう機会をとらえて、県指定から国指定にしてもらうとありがたい。努力していただきたい。</p>
<p>A委員</p>	<p>宝塚市の長尾山丘陵にも貴重な古墳があり、それらとセットで指定できたらよいのではないかと。大変貴重な古墳である。</p>
<p>委員長</p>	<p>貴重な遺物も多く出土している。</p>
<p>A委員</p>	<p>市が画文帯神獸鏡を購入したのがよかった。出土遺物が全部市が保管していることは、大変意義のあることと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>きっちり発掘調査を行い、検証も十分できていると思う。次にその他の報告をしていただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、その他の報告として川西市文化財資料館で行った、「邪馬台国時代の摂津と播磨」の展示とシンポジウムについて報告する。 (事務局より同展の報告を行う。)</p>
<p>委員長</p>	<p>シンポジウムで参加者が200人を超えたというのは、この種の講演会では多いのではないかと。</p>

<p>A委員</p>	<p>かなり遠方からも参加があった。市民の方も多く、盛り上がっていた。文化財資料館での展示も見たが、レプリカも多いもののなかなか充実していたのではないかと。何年かに1回は、文化財資料館の常設展示を外して、何か企画展ができればいいんじゃないかと思った。せっかくあれだけの展示室があるので、それくらい見応えのあるものだと思った。</p>
<p>委員長</p>	<p>邪馬台国時代の摂津と播磨では、顕著な違いがあるものなのか。</p>
<p>A委員</p>	<p>両地域ともその時代の最先端をいっていて、やがて大和政権の政治的なまとまりの主流派であったといえる。細かく言えば、摂津でも六甲南麓の海岸沿いの地域、猪名川水系、東の淀川沿いの地域もあるが、猪名川水系は少しおとなしい感じがする。播磨は、全体的に当時の政治連合の中の最先端を引っ張っていた地域で、六甲南麓の地域と淀川の地域が加わって最先端をいっていたが、猪名川流域は休止していた。その後、大和政権の時代になって、猪名川流域では宝塚市の長尾山古墳が最初に造られ、表舞台に出てくるという、細かな違いがある。全体的には、瀬戸内の一翼を占めている播磨と摂津という地域は当時の主流派であったという理解ができると思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>猪名川水系のそのような状況は、水田耕作のあり方が違うのか。</p>
<p>A委員</p>	<p>猪名川水系では、水田の調査事例が少なくよくわからないが、弥生時代の終わり頃日本海とのルートが開けてくる時代があり、古墳時代が始まる頃には日本海ルートより瀬戸内を通るルートの方が浮上してくるようになる。猪名川水系は、日本海に行くルートとして大変重要な地域で、瀬戸内ルートが活性化してくると相対的に低下していく。</p>
<p>委員長 A委員</p>	<p>日本海への交流が廃れるのか。 瀬戸内が少しもめていた時代が「倭国乱」の時期で、その時代には日本海を回って物資が入ってくる。そのなると、猪名川水系がものすごく栄える。そのなると、日本史全体の流れの中で猪名川水系は、少し浮いたり沈んだりしながら、全体としては主流派の一角を占めていることがわかるようになってきた。  そうであれば、展示パンフレットにも猪名川水系や播磨では市川</p>

審 議 経 過

NO.5

<p>委員長</p>	<p>・加古川水系等を書いておれば、わかりやすいのではないか。これからパンフレットを作る時は、水系も書き入れる工夫をした方がよい。</p>
<p>A委員</p>	<p>摂津と播磨は共通点も多く、前方後円墳の源流に弥生時代の丸い墓があるが、これは播磨から摂津にかけて卓越しており、前方後円墳を生み出す主流派であったといえる。</p>
<p>委員長</p>	<p>その他の報告で、西畦野での発掘調査の資料があるが、事務局より報告を願いたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>新名神の関係で兵庫県まちづくり技術センターが行っている西畦野下ノ段・井戸遺跡の発掘調査成果資料が届いているので、報告したい。</p>
<p>A委員</p>	<p>(事務局より同遺跡の調査概要を報告)</p> <p>私も先ほど現地を見てきたので補足したいが、一言でいうと驚くべき遺跡が川西北地域で見つかったというのが率直な印象であった。昨年度も行っていたが、今年度も平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物跡がたくさん見つかり、柱も大きくはないが、村の中で関係がある家族の建物ではないかと思う。緑釉陶器も出土している。</p> <p>また、今調査している東側では、弥生時代の終わり頃、ちょうど邪馬台国時代にあたる3世紀の初め頃の遺構・遺物が見つかりつつある。竪穴住居や日本製の小さな鏡等見つかり、そのような鏡をもつ邪馬台国時代の集落はたくさんあるわけではないので、日本海との交流中継地点の役割を果たす有力な集落ではないかと思う。</p> <p>それと、今から5,500年前の縄文時代前期の土器や後期・晩期の土器や、弥生時代前期の土器が出土しており、弥生時代中期がなくて今言った弥生時代後期から古墳時代初め頃、そして平安・鎌倉時代とずっと続いていたかはわからないが、住みついたり離れたりを繰り返している。やはり猪名川沿いの南北ルートと非常に関係のある遺跡であり、川西北部地区でそのような遺跡が出てくるとは思っていなかったもので、驚いている。</p>
<p>委員長</p>	<p>縄文時代と平安・鎌倉時代の遺構検出の高さは違うのか。</p>
<p>A委員</p>	<p>25年度の5区は少し高くなっているが、上の方が削られている可能性がある。</p>

審 議 経 過

NO.6

委員長	掘立柱建物は、伊勢神宮の20年ごとの遷宮のように柱が腐るから立て直す。このため、少しずつ離して建て替えるので柱穴が多く検出される。建物の流れを知るうえで大事な遺跡だ。
A委員	奈良時代のものはほとんどなく、畝野牧関係のものはここではつかめなかった。邪馬台国時代のものは量が多く、北近畿の土器も出土しており、驚いた。
委員長	他に報告がなければ、これで委員会を終了する。